

Title	宗教組織と信仰の機能(IV)：浄土真宗門信徒の宗教性に関する因子分析的研究
Author	金児, 暁嗣
Citation	人文研究. 34 卷 10 号, p.658-686.
Issue Date	1982
ISSN	0491-3329
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学文学部
Description	

Placed on: Osaka City University Repository

宗教組織と信仰の機能 (IV)

——浄土真宗門信徒の宗教性に関する因子分析的研究——

金 児 暁 嗣

先の研究（金児，1978）では，宗教性の次元を把握するために，専門的宗教家たる浄土真宗本願寺派の末寺住職を対象として，宗教性に関する質問紙調査を行い，その回答が因子分析された。その結果，宗教性を表わす5つの因子が抽出され，ほぼ満足的な単純構造が得られた。5つの因子はそれぞれ正統的真宗信仰の因子，道徳的・倫理的因子，保守—革新の因子，反制度的宗教の因子，社会性の因子と解釈され，第I因子の正統的真宗信仰は，宗教的経験・信念・実践・知識の4つの側面を含んだ本来的な宗教性，及び個人生活の非宗教的な部分でこれらの側面から派生する真宗者としてもつべき基本的価値観から構成されており，他の4因子は，真宗信仰が深いか否かに関係なく，真宗者がもっている社会的態度・価値観に相当するものとみなされた。そして，それぞれの因子を構成する項目の間には教義的矛盾がないことも明らかにされた。したがって，住職を対象として得られた結果は，浄土真宗の宗教性の構造として規範的意味をもったプロトタイプと考えられる。

以上のように，調査対象者を特定宗教の専門家に限定した場合，宗教活動に対する変動性を最小限に抑えることができ，宗教上の諸項目間の微妙なニュアンスの違いがかなり識別されていることが確かめられたわけであるが，そうした専門家の教化活動のもとに当該宗教を信奉する一般信者にとっては宗教性はいかなる構造を有するであろうか。彼らは性別，職業，収入，学歴などのデモグラフィック要因も多様であろうし，信仰の程度も様々であろう。それゆえに，当該宗教の信者であるからといって，専門家ほどには宗教活動も一様でなく，宗教上の諸項目を識別することができないであろう。本研究では，前回と同一手続きを使用して，浄土真宗門信徒を調査対象とし，その宗教性の構造を明らかにし，併せて住職との比較を行うことを目的としている。

方 法

調査対象者と調査方法

浄土真宗本願寺派門徒戸数は表1に示されているように公称90万戸であるが、このなかには「家の宗教」が真宗であるにすぎないという形式的門徒もいれば、「個人の宗教」として真宗に帰依している実質的門徒(信徒)も存在する。門徒の宗教性を明らかにするという本調査の趣旨からすれば、対象は実質的門徒でなければならない。このために、本願寺が仏教家庭新聞として月3回発行している『本願寺新報』の定期購読者を対象とした。購読者は約3万人で、総門徒戸数の3%余りに相当する。したがって、彼らは比較的信仰心の篤い門徒であると考えてさしつかえないだろう。調査対象者とされたのはこのうち2,998名であった。この対象者の選定にあたっては、住職を対象とした場合と同様、教区を層とした層化抽出法によった。各層の対象者数は比例割当法によって決定し、個々の対象者は本願寺新報の購読者名簿を用いて層内より単純無作為抽出された。その内訳は表1のとおりである。調査方法は郵送調査とし、回答者のプライバシーを守るために無記名回答とされ

表1 調査対象者の内訳と回収率

教 区	門徒戸数	対象者数	回 収 数	回 収 率
01 北 海 道	34,655戸	118人	65人	55.1%
02 東 北	11,766	40	17	42.5
03 東 京	27,672	95	51	53.7
04 長 野	10,653	36	16	44.4
05 国 府	8,064	28	} 35	45.5
06 新 潟	14,321	49		
07 富 山	20,460	70		
08 高 岡	22,558	77	} 73	49.7
09 石 川	9,590	33		
10 福 井	29,424	101	52	51.5
11 岐 阜	23,657	81	50	61.7
12 東 海	23,144	79	49	62.0
13 滋 賀	23,262	80	52	65.0
14 京 都	10,809	37	23	62.2
15 奈 良	10,274	35	18	51.4
16 大 阪	26,617	91	50	54.9

教 区	門徒戸数	対象者数	回収数	回収率
17 和歌山	14,673	50	25	50.0
18 兵庫	50,451	172	88	51.2
19 山陰	35,609	122	80	65.6
20 四州	47,205	161	90	55.9
21 備後	25,802	88	199	61.8
22 安芸	68,451	234		
23 山口	70,767	242	152	62.8
24 北豊岡	20,561	70	133	61.0
25 福分	43,252	148		
26 大賀	39,561	135	83	61.5
27 佐賀	30,993	106	66	62.3
28 長崎	28,155	96	57	59.4
29 熊本	65,663	224	105	46.9
30 宮崎	12,419	42	30	71.4
31 鹿児島	17,058	58	39	67.2
		教区不明 12		
計	877,546	2,998	1,726	57.6

表2 回答者の性別と年齢

性	年齢							計
	30未満	30以上 40未満	40以上 50未満	50以上 60未満	60以上 70未満	70以上		
男性	11 (0.92)	47 (3.94)	96 (8.04)	263 (22.03)	363 (30.40)	414 (34.67)	1,194 (100)	
女性	9 (1.83)	15 (3.05)	35 (7.11)	105 (21.34)	197 (40.04)	131 (26.63)	492 (100)	
計	20	62	131	368	560	545	1,686人	

$$\chi^2=20.35 \quad df=5 \quad p<.002$$

(注) 性別、年齢欄に回答のなかった40名は含まれていない。

た。回収率は57.6%であったが、住職の40.8%に比べると高い回収率であるといえる。表1には教区別の回収数と回収率も記したが、2教区をまとめて示した教区があるのは、住居を都道府県名で問うたので、同一県内に2教区が存在する場合に教区を特定できなかったためである。回答者1,726名のうち、質問票Ⅰ、Ⅱ(附録参照)に完全回答があったのは1,557名であった。

表2は調査対象者の性別と年齢の関係である。男性門信徒の方が女性門信徒よりも回答が多いのは、購読者名が形式的に男性名となっていることが多いためであり、実質的な読者の母集団分布をそのまま反映するものではない。また、表2より、男性門徒は70歳以上の高齢層が比較的多いのに対して、女性門徒は60歳以上70歳未満にモードがあることがわかる。しかし、各級間の中心点を用いて平均年齢を算出すると、男性門徒は63.1歳、女性門徒は62.5歳でほぼ同じである。

調査時期

1979年7月

調査内容

前回の住職を対象とした調査との比較という目的もあり、門徒に問うのは不適當とみなされた4項目を除き、また、若干の項目を門徒用に修正した総計70項目が前回と同一項目である。これらの項目は附録の質問票I, IIに示されている。質問項目作成上の意図については、金児(1975, 1978)に詳述されているのでここでは省略するが、教義、儀礼、伝道、真宗者の生き方、寺院や教団への態度、公的・私的な宗教行動、宗教経験、政治的態度、科学と宗教、価値観・人間観を中心としたものから構成されている。

解析方法

前回に準ずる。すなわち、項目間の相関係数を求め、この相関行列から主因子法による因子解を求める。この結果から、因子負荷量の低い項目や共通性の低い項目が見出されたなら、それらを除外して項目分析を行い、新しく構成された項目によって再度主因子法による因子分析を行う。宗教性を構成しているとみなせる因子構造が得られるまでこの手続を繰返し、最終的に抽出された因子を規準バリマックス回転し、宗教性の次元を明らかにする。次いで、性別、年齢、居住地域、職業、学歴などの外在変量とそれぞれの因子の因子得点との関係を考察する。ただし、本稿では紙面の制約上、外在変量と因子得点との関係については別の機会に譲ることとする。

結 果 と 考 察

項目の精選

まず、完全回答のあった1,557名の資料について、質問紙の選択肢に付した数値を粗点として70項目の項目間相関係数（ピアソンの積率相関係数）、及び各項目の平均と標準偏差が計算された。この結果を表3に示す。ただし、表3の項目番号61～70は、附録の質問票Ⅱの項目1～10に相当する。なお、表3には各反応カテゴリーの度数も示したが、完全回答されていない対象者の資料も含めたので、項目によって合計欄の数値に変動がある。次に、この相関行列の対角成分に各変量と残りの変量との重相関係数の平方を用いた共通性の推定値を入れて、主因子法による直交解を24因子まで求めた。前回（金児、1978）と同様、いたずらに因子空間を拡大したり、不必要な変動が混入することを防ぐために、この因子行列においてすべての因子にわたって負荷量の低い項目や共通性（ h^2 ）の極めて低い項目を除外した。その結果、宗教性を構成する因子構造を得るための項目として53個の項目が精選された（表4参照）。

因子数の推定と軸の回転

上記53項目の相関行列に基づいて先と同様の方法で主因子解を求めたところ、正の値をもつ固有値が25個得られた。図1はこの固有値を大きさの順に20個まで並べたものである。図から明らかなように、6番目で固有値が低下していたので因子数を5個と決定した。表4には、5因子までの因子行列が示されている。次に、表4の主因子法による解を、さらに解釈しやすい解へ変換するために、規準化バリマックス法による回転を行った。この結果を表5に示す。表5では、各因子において負荷量の高い項目どうしがまとめて配列されている。複数の因子に負荷の高い複合項目が7項目（Q57, Q58, Q27, Q44, Q14, Q19, Q38）あり、いずれの因子にも高い負荷量のみられない項目が2項目（Q29, Q24）あるものの、ほぼ単純構造が得られたと考えてよいだろう。表6は、表5に基づいてそれぞれの因子についてのみ高く負荷している純粋項目を配列したものである。以下、表5と表6によって因子の解釈を行ったうえで、重要な因子については、門信徒の信仰、延いては日本人の信仰におけるその因子の意義と問題点に関して検討を加えよう。

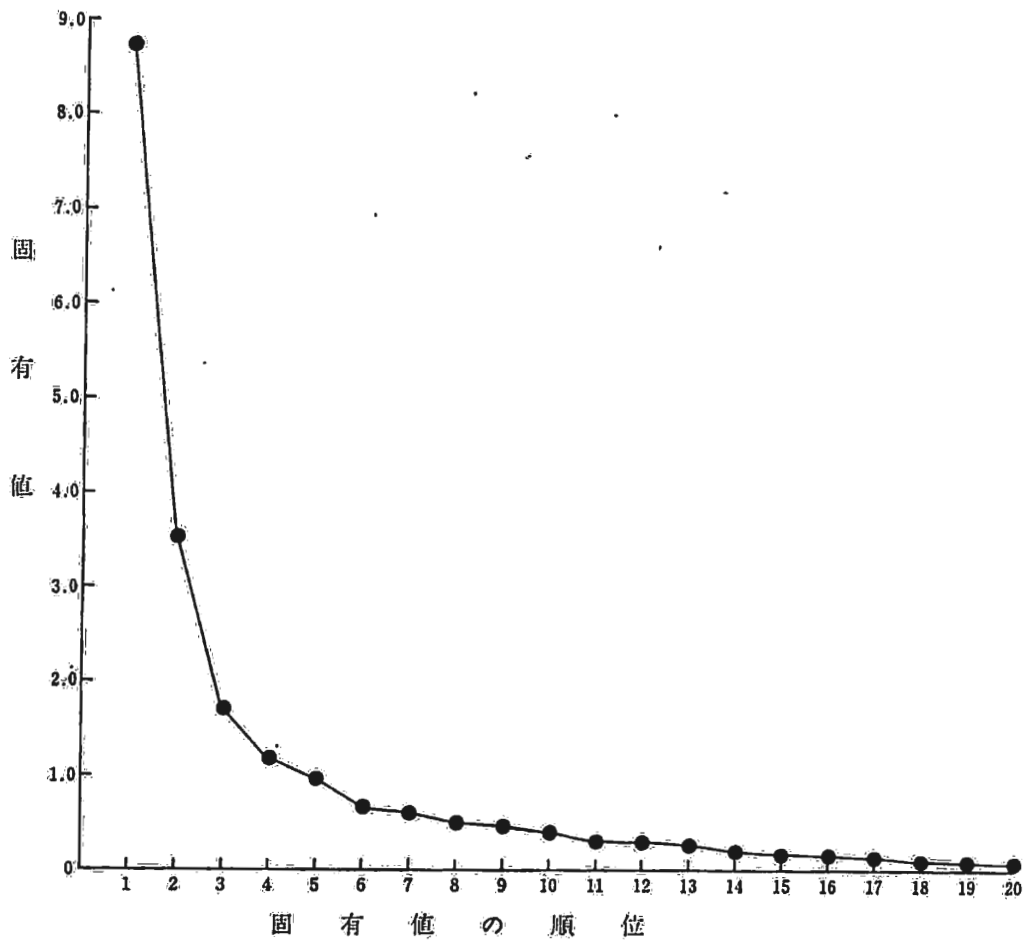


図1 主因子法によって求めた順次の固有値の大きさ

表4 主因子法による因子負荷行列

通し 番号	項目 番号	質問項目	因子					共通性 (h ²)
			I	II	III	IV	V	
1	2	浄土真宗に帰依すること…	.621	-.195	.047	.051	-.082	.435
2	3	真宗の信仰によって、死…	.582	-.042	.090	.053	-.099	.361
3	4	私はお寺に行くのが楽し…	.657	-.111	.068	.045	-.165	.478
4	5	宗教は我々に自己の存在…	.513	-.145	.132	.085	-.064	.313
5	6	私はお念仏による救いに…	-.405	.237	.107	.171	.025	.261
6	7	お念仏は私の宗教体験の…	.605	-.142	.051	.135	-.099	.417
7	8	仏教を信じないような生…	.486	-.061	.070	.028	.020	.246
8	9	宗教は、人間が人間以上…	.152	.210	.377	.066	-.076	.220
9	10	宗教は我々の社会の道徳…	.166	.145	.526	-.022	.360	.456
10	11	宗教心のない人は心の貧…	.479	.107	.161	.004	.030	.267
11	12	真宗の教えを広めていく…	.173	-.065	.403	-.082	.371	.341
12	13	現在の真宗には儀礼的要…	-.258	.002	.141	.338	.221	.249
13	14	いろいろな宗教があるが、…	-.263	.444	.266	.074	-.126	.358

通し 番号	項目 番号	質 問 項 目	因 子					共通性 (h ²)
			I	II	III	IV	V	
14	16.	私の生き方は信仰に裏打…	.580	-.093	.179	.057	.144	.401
15	19.	真宗のご法義は現実生活…	-.352	.241	.138	.341	.113	.330
16	22.	お寺は人生の諸問題を解…	.438	-.003	.099	.012	-.022	.202
17	23.	私には死後の世界がある…	.522	-.107	-.045	.009	.087	.294
18	24.	人がお念仏から得る最大…	.334	.167	.206	.023	-.062	.186
19	25.	宗教は私の人生哲学の最…	.570	-.119	.189	.076	.075	.386
20	27.	政治活動をすることより…	.518	.105	-.115	.062	.085	.304
21	28.	地獄・極楽というのは迷…	-.384	.265	.115	.141	-.103	.261
22	29.	よい生活を送るためには…	.302	.169	.295	.016	-.005	.207
23	30.	仏教はキリスト教よりも…	.532	-.066	-.097	.052	.001	.299
24	31.	僧侶は教義について知ら…	.258	.226	-.061	.226	.061	.176
25	32.	布教使は仏法を説くべき…	.196	.311	-.100	.108	.078	.162
26	33.	宗教を信じていなくても…	-.489	.161	.010	.114	-.019	.278
27	34.	科学が進めば進むほど宗…	.045	.356	-.078	.165	-.113	.175
28	37.	氏神の祭りは地域の連帯…	-.006	.414	.232	-.127	-.088	.249
29	38.	先祖供養をしない人は、…	.281	.401	.142	-.147	-.156	.306
30	39.	宗教で救われるというこ…	-.115	.376	.286	.062	-.159	.266
31	41.	日本人特有の祖先崇拜は…	.202	.354	.205	-.197	-.108	.259
32	42.	政治に対していたずらに…	.333	.479	-.118	-.095	.045	.365
33	43.	政治のことは政治家にま…	.369	.527	-.263	.130	-.033	.500
34	44.	日本には仏教という立派…	.471	.137	-.226	.063	-.109	.308
35	46.	労働者の生活の向上のた…	-.200	-.257	.199	.266	-.316	.317
36	47.	科学が進みすぎると健全…	.146	.268	-.079	.185	-.039	.135
37	48.	嫁はいったんをついだ以…	.289	.448	-.068	.015	-.052	.292
38	50.	共産主義者は、人民のた…	.247	.243	-.022	-.187	.219	.203
39	51.	労働者がストライキなど…	.337	.420	-.128	-.119	.260	.388
40	52.	労働者のストライキは労…	-.141	-.249	.270	.235	-.247	.271
41	53.	政治で騒ぐより、自分自…	.314	.525	-.273	.101	.013	.460
42	54.	われわれの暮らしは、国…	.179	.471	-.196	.193	.044	.332
43	56.	教団のかかげている目的…	-.233	.046	-.022	.396	.147	.235
44	57.	本願寺教団の方針には同…	.549	.083	.055	-.251	-.163	.401
45	58.	全体としてみても、わが教…	.540	.097	.080	-.229	-.153	.383
46	61.	真宗の教えはあなたの生…	-.564	.274	-.041	-.066	-.087	.406
47	62.	あなたはお念仏を称えて…	-.570	.125	-.015	-.083	.054	.351
48	63.	あなたは月にどのくらい…	-.399	.124	.149	-.178	.023	.229
49	64.	あなたの親しい友人を5…	-.397	-.033	.036	-.067	.055	.167
50	65.	あなたの家族の人たちと…	-.471	.219	.027	-.107	-.048	.285

通し 番号	項目 番号	質 問 項 目	因 子					共通性 (h ²)
			I	II	III	IV	V	
51	66.	あなたは1週間のうちお…	-.519	.232	.068	-.163	-.084	.361
52	68.	お念仏について, あなた…	-.545	.128	-.008	-.120	.028	.329
53	70.	工場や会社の屋上に稲荷…	-.334	.253	.184	-.066	-.059	.217
因子分散			8.704	3.533	1.693	1.193	.955	16.078
因子寄与(%)			16.42	6.67	3.19	2.25	1.80	30.34

表5 規準化バリマックス法による直交回転後の因子負荷行列

通し 番号	項目 番号	質 問 項 目	因 子					共通性 (h ²)
			I	II	III	IV	V	
1	4.	私はお寺に行くのが楽し…	.664	.094	.084	-.142	-.020	.478
2	2.	浄土真宗に帰依すること…	.651	.034	-.014	-.101	.007	.435
3	7.	お念仏は私の宗教体験の…	.640	.074	.039	-.027	-.012	.417
4	61.	真宗の教えはあなたの生…	-.610	.021	.150	.023	-.101	.406
5	62.	あなたはお念仏を称えて…	-.582	-.093	.013	.056	-.005	.351
6	25.	宗教は私の人生哲学の最…	.581	.047	.019	-.025	.212	.386
7	3.	真宗の信仰によって, 死…	.570	.126	.091	-.102	.042	.361
8	16.	私の生き方は信仰に裏打…	.569	.085	-.023	-.026	.263	.401
9	66.	あなたは1週間のうちお…	-.567	-.048	.179	-.073	-.011	.361
10	68.	お念仏について, あなた…	-.566	-.091	.027	.009	-.008	.329
11	5.	宗教は我々に自己の存在…	.551	.007	.060	-.044	.064	.313
12	65.	あなたの家族の人たちと…	-.515	-.015	.135	-.021	-.020	.285
13	30.	仏教はキリスト教よりも…	.503	.180	-.097	-.064	-.018	.299
14	23.	私には死後の世界がある…	.494	.132	-.143	-.075	.077	.294
15	8.	仏教を信じないような生…	.470	.101	-.004	-.070	.103	.246
16	33.	宗教を信じていなくても…	-.466	-.041	.125	.200	-.062	.278
17	63.	あなたは月にどのくらい…	-.429	-.111	.112	-.077	.118	.229
18	22.	お寺は人生の諸問題を解…	.410	.111	.063	-.089	.099	.202
19	11.	宗教心のない人は心の貧…	.408	.199	.114	-.094	.199	.267
20	6.	私はお念仏による救いに…	-.398	.023	.200	.245	.043	.261
21	28.	地獄・極楽というのは迷…	-.381	.027	.289	.175	-.030	.261
22	70.	工場や会社の屋上に稲荷…	-.377	-.000	.259	-.015	.089	.217
23	64.	あなたの親しい友人を5…	-.363	-.181	-.025	.040	.022	.167
24	57.	本願寺教団の方針には同…	.433	.198	.104	-.402	.046	.401
25	58.	全体としてみて, わが教…	.425	.200	.123	-.377	.066	.383
26	27.	政治活動をすることより…	.424	.336	-.085	-.034	.052	.304
27	44.	日本には仏教という立派…	.381	.361	-.021	-.082	-.159	.308

通し 番号	項目 番号	質 問 項 目	因 子					共通性 (h ²)
			I	II	III	IV	V	
28	14.	いろいろな宗教があるが、…	-.331	.148	.459	.073	.106	.358
29	19.	真宗のご法義は現実生活…	-.320	.058	.199	.417	.100	.330
30	43.	政治のことは政治家にま…	.158	.677	.092	.009	-.094	.500
31	53.	政治で騒ぐより、自分自…	.097	.665	.053	.007	-.069	.460
32	42.	政治に対していたずらに…	.097	.561	.073	-.167	.086	.365
33	54.	われわれの暮らしは、国の…	.019	.553	.082	.133	-.039	.332
34	51.	労働者がストライキなど…	.091	.550	-.095	-.127	.228	.388
35	48.	嫁はいったんとついで以…	.109	.492	.174	-.082	.020	.292
36	46.	労働者の生活の向上のた…	.023	-.394	.269	.213	-.208	.317
37	52.	労働者のストライキは労…	.066	-.387	.267	.191	-.099	.271
38	32.	布教使は仏法を説くべき…	.075	.386	.036	.067	.041	.162
39	34.	科学が進めば進むほど宗…	-.039	.335	.203	.097	-.102	.175
40	31.	僧侶は教義について知ら…	.194	.329	.056	.163	.027	.176
41	50.	共産主義者は、人民のた…	.070	.317	-.089	-.175	.243	.203
42	47.	科学が進みすぎると健全…	.078	.312	.120	.118	-.055	.135
43	38.	先祖供養をしない人は、…	.113	.337	.319	-.258	.105	.306
44	39.	宗教で救われるというこ…	-.172	.131	.455	.024	.105	.266
45	9.	宗教は、人間が人間以上…	.126	.067	.383	.001	.230	.220
46	37.	氏神の祭りは地域の連帯…	-.142	.220	.353	-.157	.175	.249
47	41.	日本人特有の祖先崇拜は…	.049	.248	.302	-.272	.172	.259
48	56.	教団のかかげている目的…	-.154	.015	.000	.460	-.005	.235
49	13.	現在の真宗には儀礼的要…	-.166	-.089	.029	.435	.154	.249
50	10.	宗教は我々の社会の道徳…	.108	.018	.163	.045	.644	.456
51	12.	真宗の教えを広めていく…	.159	-.105	-.023	-.002	.552	.341
52	29.	よい生活を送るためには…	.248	.127	.255	-.056	.247	.207
53	24.	人がお念仏から得る最大…	.276	.165	.233	-.073	.152	.186
因子分散			7.549	3.815	1.739	1.528	1.448	16.078
因子寄与(%)			14.24	7.20	3.28	2.88	2.73	30.34

(注) ゴチックは絶対値が .300以上の因子負荷量を表わす。

表6 宗教性の構造

F	№	質 問 項 目
I	4	私はお寺に行くのが楽しい
	2	浄土真宗に帰依することによって他では得られぬ人生の目標が与えられる
	7	お念仏は私の宗教体験のなかで最も重要な部分を占めている

F	No	質問項目
I	61	真宗の教えはあなたの生活にどの程度影響を与えていますか
	62	あなたはお念仏を称えているとき、み仏に抱かれているという実感を味わうことがありますか
	25	宗教は私の人生哲学の最も重要な部分を占めている
	3	真宗の信仰によって、死に直面してもやすらぎの気持をもつことができる
	16	私の生き方は信仰に裏打ちされたものである
	66	あなたは1週間のうちお聖教や宗教的書物をどれくらい読みますか
	68	お念仏について、あなたの意見に近いのは次のどれですか
	5	宗教は我々に自己の存在の意味を教えてくれる
	65	あなたの家族の人たちとの会話のなかで、あなたは宗教や宗教活動についてどれくらい話していますか
	30	仏教はキリスト教よりもすぐれた宗教である
	23	私には死後の世界があると思える
	8	仏教を信じないような生活は無意味だ
	33*	宗教を信じていなくても幸福な生活を送ることができる
	63	あなたは月にどのくらいお寺に行きますか
	22	お寺は人生の諸問題を解決する重要な場である
	11	宗教心のない人は心の貧しい人だ
	6*	私はお念仏による救いについて疑念を抱くこともある
	28*	地獄・極楽というのは迷信である
	70	工場や会社の屋上に稲荷さんをまつたとき、従業員である真宗信者のとるべき態度としてあなたはどれをすすめますか
	64	あなたの親しい友人を5人思い浮かべて下さい。さて、その人たちのうち真宗に帰依しているのは何人ですか
II	43	政治のことは政治家にまかせておくべきで、国民は自分の仕事に専念することが大切だ
	53	政治で騒ぐより、自分自身の仕事に精出した方がよい
	42	政治に対していたずらに批判するよりも政府のやり方に国民が協力することの方が現在ずっと大切なことだ
	54	われわれの暮らしは、国の政治と関係のないものだから、暮しを楽しむためには自分自身がこつこつ一生懸命に働くことが第一である
	51	労働者がストライキなどをするのは、共産主義者がうしろで煽動するからだ
	48	嫁はいったんとついで以上、自分の気持にそぐわないことでも、その家の家風に従わなければならない
	46*	労働者の生活の向上のために、労働組合のストライキはもっと大幅に許されてよい
	52*	労働者のストライキは労働者の基本的人権を守り、資本家の搾取を防ぐため

F	№	質 問 項 目
II		に絶対必要である
	32	布教使は仏法を説くべきであって、政治について語るのはもってのほかだ
	34	科学が進めば進むほど宗教の重要性がうすれていく
	31	僧侶は教義について知らなくても信仰をもつことの方が大事だ
	50	共産主義者は、人民のためということをよく口にするが、共産主義は結局は独裁的なやり方で個人の自由をおさえつけるのだから、民主主義の敵である
47	科学が進みすぎると健全な宗教心の発達を阻害される	
III	39	宗教で救われるということを目にするが、それはこの世でうまくいくことをいうのだと思う
	9	宗教は、人間が人間以上の力によって、自らの理知や力の不足を補なおうとすることから生まれたものである
	37	氏神の祭りは地域の連帯を高めるのに必要だから、ある程度協力すべきだ
	41	日本人特有の祖先崇拜は美しい風習だと思う
IV	56	教団のかかげている目的と本山当局が実際やっていることとは異なる点がある
	13	現在の真宗には儀礼的要素が多すぎる
V	10	宗教は我々の社会の道徳を維持していくのに必要不可欠である
	12	真宗の教えを広めていくうえで教団は必要不可欠だ

(注) *印は反応カテゴリーと因子負荷の符号からみて逆に解釈すべき項目

第 I 因子 門徒的真宗信仰の因子

第 I 因子はすべて宗教上の項目によって構成されているが、その内容は多様を極めており、寺院や教団に対する態度、宗教特に仏教や真宗の意義、念仏と宗教経験、生活と信仰、宗教的实践、教義に関わるものなどを含んでいる。しかしながら、これらの多様な側面も Glock と Stark (1965) の提唱する 5 つの次元に分類することが可能である。まず、Q16, Q 6, Q19 は「信者としてもつべき信念」を表わし、宗教的信念（イデオロギー的次元）に相当しよう。また、Q 7, Q62 は称名念仏による個人的な宗教感情（経験的次元）である。従来、宗教経験を論ずる場合、宗教的表出形態のなかでも極端な形態である回心が過度に強調されてきたきらいがあるが、宗教的信念や実践に付随して生ずる、それほど激烈でない経験があることを看過してはならない。それどころか、真宗における宗教体験は、総じて Q62 に代表されるように、慈悲の光のなかにゆったりと包み込まれるといった情緒的体験がほとんどを占めているのである。次に、Q14, Q23, Q28 は自己の信仰の基

本的教義に対する知識を有するか否かという意味で宗教的知識（知的次元）に該当する。それらの項目が教義に関連するというのは次の理由による。Q14の「いろんな宗教があるが、結局行きつくところはみな一つである」という項目は、宗教を問題解決のための手段とみなす物質的現世利益志向を表わすものであり、浄土真宗では否定さるべきものである。また、仏教の世界観からいえば、現在だけが存在するのではなく、過去・現在・未来の三世を一貫して人間の全体を救うものと解されねばならない。この意味からすれば、「死後の世界」(Q23)も存在するし、「地獄・極楽」(Q28)も決して迷信ではないのである。ところで、この知的次元は、信仰の深まりとともに、単なる知識にとどまらず宗教的信念へと転化する場合が多いので、知的次元はイデオロギー的次元と密接な関連性をもつことになり、判然と区別し難いことが多々ある。Q14, Q23, Q28が宗教的信念を表わす他の項目とともに第Ⅰ因子を構成していることから、知識が信念と化しているとも解釈できよう。さて、広義の宗教行動のなかでも特定の宗教活動に注目した場合、それは宗教的実践（儀礼的次元）に言及していることになる。Q66, Q68, Q65, Q63はこの次元に相当する。

第Ⅰ因子を構成する諸項目が、宗教的信念・経験・知識・実践を包含したものであり、しかも反応カテゴリーと因子負荷の符号からみて整合性が保たれていることは、第Ⅰ因子が門徒に期待さるべき宗教性を表わしているといえよう。以上の諸次元における信仰の結果として信者がもつべき社会的態度や価値観、すなわち信仰が個人に及ぼす俗的な効果を、Glock と Stark は宗教的効果（結果的次元）とよんでいる。第Ⅰ因子を構成する諸項目のうち、寺院や教団に対する態度 (Q4, Q22, Q57, Q58), 宗教の意義 (Q25, Q8, Q33, Q11), 他宗教に対する仏教の優越性 (Q30, Q44), 日常生活と信仰 (Q70), 友人関係 (Q64), 政治と宗教 (Q27), 信仰から得られる「利益」(Q2, Q61, Q3, Q5) は、この次元に相当するといえる。特に「利益」は、信心獲得によって備わる現生十種の益と親鸞が述べたものに関連するがゆえに真宗信仰による宗教的効果として重要であろう。しかしながら、これら宗教的効果に属する項目のうち、宗教の意義にしても、「宗教心のない人は心の貧しい人だ」(Q11)とあるように、無宗教者に対して合理的根拠なしに示すステレオタイプ化した非好意的態度、すなわち偏見を認めることができる。また、Q44の「日本には仏教という立派な宗教があるのだから、他の宗教は不必要だ」の如く、他宗教に対する排斥的態度も含まれている。さら

に、Q57やQ58では、教団への肯定的態度が認められる。門信徒にあっては、教団も信仰の対象とされていることが示唆される。住職を対象とした前回の調査では、第Ⅰ因子を正統的真宗信仰の因子と名づけたが、住職の場合には以上の4項目は第Ⅰ因子に含まれていなかったことが注目される（後出の表7参照）。換言すれば、住職においては信仰の程度とは関係なく真宗者が有する社会的態度・価値観とされたものが、門信徒にあっては信仰に由来する宗教的効果としての意味を有しているといえよう。そして、その価値観は、権威や伝統を無批判に承認し、これに服従、依存するといった権威主義的な側面をはらんだものである。門信徒の信仰は権威主義的真宗信仰とみなすことができよう。以上の論点から、第Ⅰ因子は門信徒に特有の真宗信仰を表わすものとして、門徒的真宗信仰の因子と名づけられよう。

第Ⅱ因子 事なかれの伝統主義の因子

第Ⅱ因子には、宗教上の項目（Q32, Q34, Q31, Q47, Q38, Q27, Q44）もかなり含まれているが、いわゆる政治的・経済的態度とよばれている項目がほとんどを占め、しかもそれらの項目の負荷量が高い。しかし、このことから第Ⅱ因子を一概に保守—革新の因子として片付けてしまうわけにはいかない。諸項目を子細に検討すれば、Thurstone (1934) や Eysenck (1951) が西欧社会で見出した意味での保守—急進の因子に相当するものではないことがわかる。かといって、「人は食うか食われるかの弱肉強食の世界に生きている。安全＝力である」という権威主義的パーソナリティ特有の世界観とも微妙に異なる。むしろ、Riesman (1953) のいう「伝統志向型」の社会的性格が日本独自の方法で培養されたものとみるべきであろう。

戦後の日本人の基本的パーソナリティ構造としてつとに指摘されてきた特徴は、伝統的価値態度体系と近代的な民主主義的・社会主義的イデオロギーである。前者の伝統的価値態度体系は、近世以降の「半封建的」絶対主義的社会構造を基盤として形成され、それを支える支柱として人びとの心の奥底に浸透してきたものであり、権威主義的態度を中心としている。そこでの行動様式は、川島(1950)や城戸(1970)が鋭く分析したように、縦と横の「醇風美俗」が絡みあっている。横の醇風美俗とは、主として農村の家族に典型的な運命共同体的な情緒的つながりが支配的で、情緒的な人間関係のなかに個人を埋没させてしまおうとする意識が強く、世間体、要領主義、孤立の恐怖を特徴とする。縦の醇風美俗とは、武士に典型的な家父長的家族社会で、

そこでの人間関係は、主として家長の権力を中心とする縦の関係で、温情・庇護という儒教倫理によって支えられているもので、権威主義的服従、既成事実への屈服、義理人情などがその内容である。このような日本特有の価値態度体系は、「長いものにはまかれろ」式の事なかれ主義を生み出してきた。事なかれ主義が習慣化されてしまうと、Riesman (1953) が伝統志向型の特徴としてあげたように、主体的意識が欠如し、所与の現実を容認し、その結果、新しい状況で問題を創造的に解決することに大きな不安を感じるようになり、政治的に無関心となり、変化を恐れるようになる。城戸 (1970) は次のように述べている。

「長いものにはまかれろ」とか、「さわらぬ神にたたりなし」ということわざは、長い封建制度の下で、政治への参加を認められず、有為転変する支配者の交替と、上からの一方的な抑圧のもとで、せせと働きつづけてきた農民が最も確実な社会生活の適応技術として発達させてきた態度である。

そして、城戸は、この「事なかれ主義」は、農民だけではなく日本人全体の国民性であると指摘した。

さて、以上の論議を踏まえれば、第Ⅱ因子の意味するところは、極めて明快に、事なかれの伝統主義と結論できよう。まず、Q48の「嫁は嫁ぎ先の家風に従うべきだ」という項目は、家父長的家族の家長対家族員における権威主義的な支配-服従の関係を表わすものである。そして、その関係が国家レベルにまで拡大されているのがQ43, Q53, Q42, Q54であり、政府という権力に対する権威主義的服従を示している。それはまさに、上に引用した城戸 (1970) の述べるところそのものである。元来、下層農民の運命共同体的集団では、横への情緒的つながりが支配的であり、家父長的家族制度は存在しなかったといわれている (作田, 1972; 井上, 1977)。しかも、真宗教団における門信徒の職業構成は約半数が農林・漁業従事者で占められ、寺院の立地状況をみると、約7割が農・山・漁村に存在している。にもかかわらず、このような権威主義的服従の発現をみたのは、本調査の対象者の年齢構成 (表2参照) から推測して、戦前の儒教倫理にもとづく教育勅語と修身教育の影響を物語っている。そして、戦前の教団の教学的あり方も、事なかれの伝統主義の培養に荷担したものであったことは否めない。この論結の妥当なることは、Q27, Q32, Q31におけるように、門信徒自身、僧侶、布教使に対する分限意識によっても明らかである。

一方、閉鎖的で運命共同体的な情緒的人間関係のなかに自己を埋没させる

ことによって集団生活に適応しようという行動様式は、現在秩序への埋没を生み、変化を恐れる。これが端的に現われているのがQ34やQ47の「科学と宗教」の問題であり、進歩による社会的変化への恐れを垣間見ることができる。このような事なかれの伝統主義は、美しい伝統擁護を建前としながら、先祖供養をしない人や仏教以外の宗教を排斥（Q38, Q44）しようというステレオタイプを生んでいることにも注目する必要があるだろう。

以上の事なかれの伝統主義は、もうひとつのイデオロギーである、戦後に導入された近代的な民主主義的・社会主義的イデオロギーとは論理的に相容れない緊張をもたらし、当然これを拒否しようとするだろう。したがって、この2つのイデオロギーは逆の相関があり、事なかれの伝統主義者は社会主義に強い反発を示すことが予想される。Q51, Q46, Q52, Q50は政治・経済的な場面における社会主義的な問題解決への志向を問うた項目であるが、これらの項目はすべて、先の諸項目と有意な相関を得ており（表3参照）、しかもこの第Ⅱ因子を構成していることは、政治的場面においても事なかれの伝統主義が積極的に機能していることを示している。

第Ⅲ因子 民族宗教の因子

第Ⅲ因子は、物質的現世利益、祖先崇拜、及び氏神信仰の3種類の側面から成っている。まずQ14は、先の第Ⅰ因子の項でも述べたように、宗教を問題解決のための手段とみなす物質的現世利益志向を表わしている。この点は、Q39の「宗教で救われるということを耳にするが、それはこの世でうまくいくことをいうのだと思う」についても同様である。また、Q9の「宗教は、人間が人間以上の力によって、自らの理知や力の不足を補なおうとすることから生まれたものである」という意見は一見もっともらしく聞こえるが、この意見にも宗教を人間の欲望を満たすための手段とみなしている側面がうかがえる。

さて、このような物質的現世利益を軸とした民衆の宗教思想と行動から成り立っているのが民間信仰であり、その端的な表現は祈願行為である。地域共同体の守護神である氏神や鎮守が、氏子たちの祈願に応じてご利益をもたらしてくれる（宮田, 1973）。この意味で、氏神の祭りは個人祈願ではなく共同祈願であって、まさにQ37が示すように、地域の連帯を維持するために協力しなければならないのである。

ところで、桜井(1970)によれば、この民間信仰は自然信仰から精霊信仰へ

と進展してアニミズムの段階が出現し、次いで、死霊畏敬の念が高まるとともに祖霊信仰または氏神信仰が展開する。一方、家意識が高まるにつれて、家創始の祖先を崇める祖先神が生まれ、先祖祭祀を重要視する傾向が強化された。現世利益的民間信仰が氏神信仰へ、そして祖先崇拜へと至るとの以上の解釈の妥当なることは、Q38、Q41の先祖供養、祖先崇拜に関する項目も第Ⅲ因子を構成している事実によって裏付けられている。筆者もかつて、現代の日本人においても、その宗教性は祖先崇拜を中心としたアニミズムにあること、また、祖先崇拜は神社崇拜と表裏一体のものであることを、質問紙調査によって明らかにした(金児, 1970)。以上の考察と以下の棚瀬(1960)の示唆によって、第Ⅲ因子を民族宗教の因子と命名することができる。

棚瀬は、民間信仰をより包括的に呼びうる概念として「民族宗教」を使用している。そして、世界のすべての宗教が世界宗教(仏教, キリスト教, イスラム教), ことに仏教とその他の宗教に大別できるとしている。その他の宗教は総じて民族宗教であり、民間信仰はその一形態である。世界宗教は精神主義であるのに対して、民族宗教は儀礼主義を特色とする。世界宗教にも儀礼は存在するが、それが精神主義であるというのは、世界宗教が真の自己にかかわっている内面的宗教であることを意味し、人間の外面的な地盤に結合していないことを意味する。一方、外面的地盤に結合する民族宗教には、宗教とはいいながら精神生活というべきものは現われぬ。民族宗教では、外面的・部分的な人間生活の危機において、対外的に外部に向けて対応がなされる。したがって、世界宗教を対内的対応、民族宗教を対外的対応の宗教と呼ぶことができるという。そこで次に、真宗信仰において民族宗教が占める位置について若干の考察を加えよう。

棚瀬(1963)によれば、対内的対応の宗教と対外的対応の宗教は相容れず、科学の発達とともに民族宗教は衰亡する。民族宗教は人間の自然的欲望の追求を超合理的に達成しようとしており、科学はその追求を合理的に試みている。両者の志向するところは同一であるが、民族宗教の超合理性は科学的合理性の発達した現代においては不合理性に転落するというのが民族宗教衰亡論の根拠である。このように、棚瀬は民族宗教に対する世界宗教の優位性を主張するけれども、世界宗教と民族宗教が日本人の信仰のなかに同時に存在する可能性とその意義を過小評価している傾向がある。『宗教年鑑』(文化庁, 1980)によれば、日本の諸宗教の教団から届出されている信徒数は現在の総人口の約2倍に達する。この重層的信仰は、諸宗教を機能的に使い分けて

いることを意味する。機能的使い分けは民族宗教のなかにおいて行われていることが多いだろうし、また、多神教的傾向が強い民族宗教を志向する個人にあってこそ、現在利益を与えてくれる種々の神仏を信仰するといえよう。しかし、日本人の信仰形態の特徴として、対内的対応としての世界宗教と対外的対応としての民族宗教を同時に信奉する理由については、これまで明らかにされてこなかったようである。本調査において見出された第Ⅰ因子の門徒的真宗信仰は対内的対応の宗教、第Ⅲ因子の民族宗教は対外的対応の宗教とみなすことができるので、棚瀬の二大別は真宗門信徒の場合にも当てはまることを示している。そして、重要なことは、両因子の独立性という点から、両次元の宗教性がともに高い門信徒、すなわち対内外的対応としての信仰を有する門信徒が存在することであろう。真宗教義からいえば、彼らは明らかに誤った信仰を抱いてはいる。そして、民族宗教の関心が現世利益のみにあるとした場合には、棚瀬のいうように、民族宗教はいずれ衰亡するかもしれない。しかし、家族・血縁・地縁の関係を再認識する「関係づけの儀礼」としての側面に視点を移せば、民族宗教は決して滅びることはなく、彼らの信仰形態も存続するだろう。関係づけ儀礼の典型は、日本よりもむしろアメリカ日系社会における浄土真宗のなかにみることができる。栗田(1982)は、カリフォルニア州西部のサンノゼ仏教会の盆踊りを観察し、「アメリカ仏教会の大きな特徴は、社交を通じておなじ感情を共有し、おなじ民族の根をもったもの同士の集まりであるという、情緒性において結びあった人びとである」と述べ、教義よりも先祖崇拜がその根幹をなしているとしている。日本における氏神の祭りはもちろん、先祖祭祀も共同祈願であり、共同祈願によって仲間は生産や生活の共同体意識を強めることができる。Q38の「先祖供養をしない人は信仰のない証拠である」には71.1%、Q41の「日本人特有の祖先崇拜は美しい風習だと思う」には実に95.2%、Q37の「氏神の祭りは地域の連帯を高めるのに必要だから、ある程度協力すべきだ」には74.6%の門信徒が賛意を表明している事実から、民族宗教に支えられたところで真宗信仰が成立しているといっても過言ではない。結局、日本人にあっては、地縁・血縁を無視して世界宗教は成立しえない面があるといえよう。

第Ⅳ因子 反制度的宗教の因子

この因子は、住職を対象として得られた第Ⅳ因子と極めて類似している。この因子に負荷量の高い5項目のうち、Q19の「真宗のご法義は現実生活と

遊離している点がある」とする項目が、住職では正統的真宗信仰の因子の逆転項目として参与している点を除いて、4項目が住職の場合と共通している。したがって、この因子を住職における第Ⅳ因子と同様、反制度的宗教の因子と名づける。その詳細についてはすでに述べたので(金見, 1978), 本稿では省略する。

第Ⅴ因子 道徳教団の因子

この因子に負荷量の高い項目は2項目しかないが、次に述べる理由で興味深い因子である。この因子の因子得点が高い人は、宗教の道徳維持機能を評価し(Q10)、そのために教団の必要性を認めている(Q12)。住職を対象とした調査でも、道徳的・倫理的因子が見出されたが、住職と門信徒を比較して決定的に異なる点は、住職の場合には、信仰によって個人生活において道徳的たらしめとするか否かを個人自身の問題として考えることがその因子の核心であるのに対して、門信徒にあっては、集団的に道徳を高めていこうとするか否かの積極的姿勢が関心事となっている。近年、道徳的疑似宗教として台頭してきた倫理運動教団であるモラロジーや実践倫理宏正会などの会員は、第Ⅴ因子の因子得点が高いことが予想される。

本来、真宗では、対人関係において調和を保つための道徳に関しては一切言及していない。Berger (1967) の言葉を借りれば、「聖なるコスモス」は説いても「俗なるコスモス」の構築は門信徒の判断に委ねられていたといえよう。にもかかわらず、門信徒の間に独立な因子としてこのような宗教性の存在を見出したことは極めて興味深いことであり、現代社会の世俗化過程を象徴するものといえるかもしれない。その因って来るところは、デモグラフィック要因との関連において明らかにされるであろう。

住職と門信徒の比較

本研究で最初使用された70項目のうち、項目分析で最終的に残ったのは53項目であった。住職を対象とした調査では、74項目のうち55項目が精選された。このうち、住職と門信徒で共通する項目は47項目である。表7は、それらの共通項目の因子番号を住職、門信徒それぞれについて示したものである。先に各因子を解釈した際にも若干言及したので重複する部分があるけれども、以下に表7によって住職と門信徒の宗教性の比較を試みよう。ただし、表7のように因子パターンを比較する場合、すべての項目を両群で共通にした

表7 両調査に共通する項目の比較

通し 番号	項目 番号	質 問 項 目	住職対象 調査での 因子番号	門信徒対象調査 での因子番号
1	61	真宗の教えはあなたの生活にどの程度影響を与えていますか	I	I
2	65	あなたの家族の人たちとの会話のなかで、あなたは宗教や宗教活動についてどれくらい話していますか	I	I
3	2	浄土真宗に帰依することによって他では得られぬ人生の目標が与えられる	I	I
4	16	私の生き方は信仰に裏打ちされたものである	I	I
5	7	お念仏は私の宗教体験のなかで最も重要な部分を占めている	I	I
6	14	いろんな宗教があるが、結局行きつくところはみな一つである	I	I
7	6	私はお念仏による救いについて疑念を抱くこともある	I	I
8	5	宗教は我々に自己の存在の意味を教えてくれる	I	I
9	25	宗教は私の人生哲学の最重要部分を占めている	I	I
10	63	あなたは月のどのくらいお寺に行きますか（あなたのお寺では、月にどのくらい門信徒との会合をもちますか）	I	I
11	4	私はお寺に行くのが楽しい（私は寺院活動が楽しい）	I	I
12	68	お念仏について、あなたの意見に近いのはどれですか	I	I
13	64	あなたの親しい友人を5人思い浮かべて下さい。さて、その人たちのうち真宗に帰依しているのは何人ですか	I	I
14	30	仏教はキリスト教よりもすぐれた宗教である	I	I
15	62	あなたはお念仏を称えているとき、み仏に抱かれているという実感を味わうことがありますか	I	I
16	28	地獄・極楽というのは迷信である	I	I
17	66	あなたは1週間のうちお聖教や宗教的書物をどれくらい読みますか	I	I
18	19	真宗のご法義は現実生活と遊離している点がある	I	I IV
19	27	政治活動をするよりも、教えを聞くことの方が大切だ	I	I II
20	70	工場や会社の屋上に稲荷さんをまつたとき、従業員である真宗信者のとるべき態度としてあなたはどれをすすめますか	I	I
21	22	お寺は人生の諸問題を解決する重要な場である	I II	I
22	23	私に死後の世界があると思える	I II	I
23	33	宗教を信じていなくても幸福な生活を送ることができる	I II	I
24	3	真宗の信仰によって、死に直面してもやすらぎの気持ちをもつことができる	I II	I

通し 番号	項目 番号	質 問 項 目	住職対象 調査での 因子番号	門信徒対象調査 での因子番号
25	8	仏教を信じないような生活は無意味だ	I II	I
26	41	日本人特有の祖先崇拜は美しい風習だと思う	II	III
27	29	よい生活を送るためには何らかの宗教的信仰が必要だ	II	—
28	10	宗教は我々の社会の道徳を維持していくのに必要不可欠である	II	V
29	11	宗教心のない人は心の貧しい人だ	II	I
30	38	先祖供養をしない人は、信仰のない証拠である	II	II III
31	37	氏神の祭りは地域の連帯を高めるのに必要だから、ある程度協力すべきだ	II	II III
32	53	政治で騒ぐより、自分自身の仕事に精出した方がよい	II III	II
33	46	労働者の生活の向上のために、労働組合のストライキはもっと大幅に許されてよい	III	II
34	51	労働者がストライキなどをするのは、共産主義者がうしろで煽動するからだ	III	II
35	50	共産主義者は、人民のためということをよく口にするが、共産主義は結局は独裁的なやり方で個人の自由をおさえつけるのだから、民主主義の敵である	III	II
36	52	労働者のストライキは労働者の基本的人権を守り、資本家の搾取を防ぐために絶対必要である	III	II
37	42	政治に対していたずらに批判するよりも政府のやり方に国民が協力することの方が現在ずっと大切なことだ	III	II
38	44	日本には仏教という立派な宗教があるのだから、他の宗教は不必要だ	III	I II
39	56	教団のかかげている目的と本山当局が実際やっていることとは異なる点がある	IV	IV
40	57	本願寺教団の方針には同感できる	IV	I IV
41	58	全体としてみて、わが教団はよい教団だと思う	IV	I IV
42	12	真宗の教えを広めていくうえで教団は必要不可欠だ	IV	V
43	13	現在の真宗には儀礼的要素が多すぎる	IV	IV
44	43	政治のことは政治家にまかせておくべきで、国民は自分の仕事に専念することが大切だ	V	II
45	47	科学が進みすぎると健全な宗教心の発達が阻害される	V	II
46	34	科学が進めば進むほど宗教の重要性がうすれていく	V	II
47	54	われわれの暮らしは、国の政治と関係のないものだから、暮らしを楽しむためには自分自身がこつこつ一生懸命に働くことが第一である	V	II

(注) 質問項目のうち、()内は住職用の項目である。

各因子の命名は次のとおりである。

住 職： I. 正統的真宗信仰 II. 道徳的・倫理的 III. 保守—革新 IV. 反制度的宗教 V. 社会性

門信徒： I. 門徒的真宗信仰 II. 事なかれの伝統主義 III. 民族宗教 IV. 反制度的宗教 V. 道徳教団

うえて因子分析を施した結果にもとづいて比較するのが望ましいことは勿論であるが、われわれの研究目的が住職や門信徒の宗教性を明らかにすることにあつたので、厳密に因子パターンを比較する方法を敢えてとってはいない。

住職における因子パターンを真宗の宗教性のプロトタイプと考えれば、門信徒がそこからどのようにずれているかをみることによって、門信徒の宗教性を一層明らかに把握できるだろう。さて、表7をみれば、両群の類似点と相違点が明瞭である。まず、真宗信仰に関わる因子は、住職、門信徒ともに第Ⅰ因子に現われ、共通分散に対して第Ⅰ因子の占める割合が他の因子よりも高く、住職では33.8%、門信徒では46.9%である。そして、第Ⅰ因子を構成する項目は両群でほとんど一致している。しかしながら、前にも述べたとおり、門信徒ではQ11、Q44にみられるように、他宗教や無宗教者に対する偏見も真宗信仰の一翼を担っていること、また、Q57、Q58の如く、教団信奉も真宗信仰である点が注目される。この意味で、門信徒の真宗信仰は権威主義的であるといえるのである。

また、住職の第Ⅱ因子である道徳的・倫理的因子に相当する因子は、門信徒の場合には見出すことができなかった。むしろ門信徒にあっては、道徳維持を教団的に推進しようとする疑似宗教の傾向が第Ⅴ因子として抽出されている。そして住職の道徳的・倫理的因子を構成する諸項目のなかには門信徒の第Ⅲ因子にあずかっている項目のあることが注目される。住職の第Ⅱ因子の項目のうち、Q41、Q38、Q37がそれである。しかし、これら3項目から、門信徒の第Ⅲ因子が住職の第Ⅱ因子に対応するとはいえない。なぜなら住職の場合には項目分析によって除外された、現世利益を表わすQ39、Q9も門信徒の第Ⅲ因子を構成している（表6参照）からである。門信徒では単なる道徳・倫理にとどまらず、民族宗教としてのニュアンスを帯びている。

また、住職の第Ⅲ因子と門信徒の第Ⅱ因子に同一項目がかなりあるものの、住職では社会的無関心を表わす因子として独立に抽出されたQ43、Q47、Q34、Q54が門信徒の第Ⅱ因子に参加している点は、両群のイデオロギーの根本的相違を示すものといえよう。

最後に、住職と門信徒の第Ⅳ因子については類似点が多い。しかし、項目分析によって門信徒の場合に除外され、住職では残されて第Ⅳ因子を構成している項目をみれば、同じ反制度的宗教といっても微妙な相違もあることに気づかれる。それらの項目は、Q35の「僧侶は教団にまもられて布教活動をするべきだ」、Q40の「形式的なお盆の檀家参りは廃止すべきである」、Q1の

「お寺がなくても門信徒が円滑な宗教生活をおくることは可能だ」の3項目である。住職の場合には、寺院も含めて、教団、儀礼といった制度的なものに対して反発する因子が認められたのに対して、門信徒にあっては、反発は教団、儀礼に向けられ、決して寺院に向けられてはいない。このことは、門信徒には「自分のお寺」という意識が強固であることを示している。

要 約

1. 浄土真宗本願寺派門信徒を対象として、宗教性に関する質問紙調査が郵送調査によって行われ、最終的に1,557名の門信徒の回答が分析された。

2. 因子分析の結果、真宗門徒の宗教性にかかわる5つの因子が抽出され、それぞれ門徒的真宗信仰の因子、事なかれの伝統主義の因子、民族宗教の因子、反制度的宗教の因子、道徳教団の因子と解釈された。

3. 前回の住職を対象とした調査結果と比較して、第Ⅰ因子の門徒的真宗信仰の因子は権威主義的な信仰であること、第Ⅱ因子の事なかれの伝統主義は、単なる保守—革新ではなく、「半封建」体制下で培養された日本人特有の価値態度体系であること、第Ⅲ因子の民族宗教の因子は、住職には見出されなかった因子であるが、真宗信仰と両立する可能性と意義を見出しうること、第Ⅳ因子の反制度的宗教の因子には、住職の場合と異なり、寺院に対する反発がないこと、そして、第Ⅴ因子の道徳教団の因子には道徳的疑似宗教が認められ、世俗化過程の現われかもしれないこと、などが指摘された。

(附記)

1. 多数の項目に回答いただいた門信徒の方々に御協力厚く御礼申し上げます。
2. 本研究の計量的分析は、西本願寺伝道院の援助を受け、IBMデータ・センターにおいて行われた。使用された計算プログラムはBMD-Pである。

文 献

Berger, P. L. *The sacred canopy: Elements of a sociological theory of religion*. Doubleday & Company, 1967.

(蘭田稔訳『聖なる天蓋』新曜社 1979)

Eysenck, H. J. *The psychology of politics*. Routledge & Kegan Paul, London. 1954.

Glock, C. Y. & Stark, R. *Religion and society in tension*. Chicago: Rand

McNally, 1965.

井上忠司 『「世間体」の構造—社会心理史への試み』 NHKブックス 日本放送出版協会 1977.

金児暁嗣 神社崇拜と政治・生活意識——その因子分析的研究 伝道院紀要, 1970, 第9号, 51—78.

金児暁嗣 宗教組織と信仰の機能(Ⅱ)——宗教性の次元に関して 伝道院紀要, 1975, 第16号, 53—70.

金児暁嗣 宗教組織と信仰の機能(Ⅲ)——僧侶の宗教性に関する因子分析的研究 伝道院紀要, 1978, 第20号, 1—42.

川島武宜 『日本社会の家族的構成』日本評論社 1950.

城戸浩太郎 『社会意識の構造』新曜社 1970.

栗田靖之 カリフォルニアの盆踊り——アメリカ社会と日系人の生きかた 季刊民族学 1982, 第21号, 6—17.

宮田登 “現世利益” (小口偉一・堀一郎 監修 『宗教学辞典』東京大学出版会, 1973)

Riesman, D. *The Lonely Crowd*, Yale University Press, New Haven. 1953.

(加藤秀俊訳『孤独な群集』みすず書房 1964)

桜井徳太郎 『日本民間信仰論』弘文堂 1970.

作田啓一 『価値の社会学』岩波書店 1972.

棚瀬襄爾 『民俗信仰と真宗』布教叢書24 浄土真宗本願寺派布教研究所 1960.

棚瀬襄爾 現代社会と宗教(その概観) 伝道院紀要, 1963, 第2号, 1—34

Thurstone, L. L. The vectors of mind. *Psychological Review*, 1934, 41, 1—32.

(附録) 本願寺派ご門徒各位

昭和54年7月7日

拝啓 貴台には益々ご清栄のこと大慶に存じます。

さて、従来西本願寺伝道院では、毎年門信徒の方々を対象に宗教意識や社会的態度について調査を行ってまいりました。それらの成果は教化・伝道のための資料として有意義に活用させていただいております。しかしながら、特に現代のような価値観の多様化した社会的・文化的状況にあっては、全国的な調査を実施し、広く門徒の皆様のご意見をお聞きし、これからの教団のあり方を考えるうえでの参考にする必要性を痛感しております。こうしたことから、このたび門徒を対象とした種々の側面よりなる意識調査を行うこととなりました。調査の趣旨は以下に記した通りですが、その趣旨をご理解いただき、教団の発展のためにご協力いただきたいと思います。

なにかとご多忙のところ大変恐縮でございますが、何分ともよろしくお願い申し上げます。

敬 具

京都市下京区油小路正面
西本願寺 伝 道 院

<調査の趣旨とお願い>

1. この調査は、全国の門徒全員に対して実施するものではありません。いわゆる無作為抽出という一種のくじびきに似た方法で門徒名簿より選ばせていただきました。
2. 同封の内容は、本状、質問用紙、回答用紙及び返送用封筒の4部です。
3. この調査は、伝道院が門徒の方々の生活や物の考え方、宗教に対する態度などを全国的に調査・研究するための計画であります。
4. 調査用紙は質問票Ⅰと質問票Ⅱよりなっております。質問には選択形式でお答えいただくようになっております。適切な回答が見当たらない場合があるかもしれませんが、その場合でもご自身の考えに一番近いものをお選びいただき、必ず全ての質問にお答え下さい。1問でも無記入がありますと、データのもつ意味が半減してしまいますので、この点特にご注意下さい。
5. 質問の内容は宗教上の諸事項に関することが多くなっていますが、この質問に答える場合に、「こんなことは自分の名誉にかかわるから書かないようにしよう」とか、「こんなことを書いたら門徒として恥かしいことだ」とかいう心配をなさらずに、ありのままのご意見をお聞かせ下さい。テストとちがって、正しい解答というものはありません。ありのままの実態からわれわれの反省も生まれ、教団の発展につながるものと確信する次第であります。
6. 返送していただくのは回答用紙だけで、質問用紙はお送りいただく必要はありません。しかし、まず調査用紙にご意見を記入していただき、それを回答用紙に転記していただくと記入もれ等のミスが防げます。
7. 返送いただきました回答は、浄土真宗門徒の傾向としてまとめるだけで、「何々教区の誰々がこういうことを書いている」というような個人にかかわる発表は一切いたしませんし、あなたの所属する寺院のご住職にも知らせることはありません。従って、回答書は無記名で返送して下さい。
8. 回答〆切日 昭和54年7月20日(金曜日) 伝道院必着。

<フェイス・シート>

まず、以下の項目にお答え下さい。

1. 性別 1. 男 2. 女 (番号を○で囲む)
2. 年齢 満 才
3. おすまい _____ 都・道・府・県
4. 職業 (回答用紙には番号を書き込む)
 1. 専門的技術的職業 2. 管理的職業 3. 事務 4. 販売 5. 農林業
 6. 漁業 7. 採鉱・採石 8. 運輸・通信 9. 技能工・生産工程 10. 単純労働
 11. 保安 12. サービス 13. 無職 14. その他 ()

(具体的に書いて下さい)
5. あなたの最終学歴をご記入下さい。(回答用紙には番号を書きこむ)
 1. 在学したことがない 2. 小学 3. 高小・新制中学
 4. 旧制中学・新制高校 5. 旧制高校・専門・短大 6. 新旧大学

質 問 票 I

この質問票では60個の項目について賛成か反対かをお聞きするわけですが、それぞれの項目について、あなたの個人的なご意見を次の要領で記入して下さい。それぞれの意見に、最も強く賛成される場合は…5、どちらかといえば賛成の場合は…4、賛成反対どちらにも決められない場合は…3、どちらかといえば反対の場合は…2、全く反対される場合は…1をそれぞれ○でかこんで下さい(回答用紙へは番号を記入して下さい)。類似した質問項目がでてきても、必ず全問にご回答下さい。

私個人としては
この意見に

全 く 反 対 だ い	ど え ば ど ち ら か と い え ば 反 対 だ い	ど え ば ど ち ら か と い え ば 反 対 だ い	ど え ば ど ち ら か と い え ば 反 対 だ い	ど え ば ど ち ら か と い え ば 反 対 だ い	全 く 賛 成 だ い
----------------------------	---	---	---	---	----------------------------

意 見

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. お寺がなくても門信徒が円滑な宗教生活をおくることは可能だ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 浄土真宗に帰依することによって他では得られぬ人生の目標が与えられ
る…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 真宗の信仰によって、死に直面してもやすらぎの気持をもつことができ
る…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 私はお寺に行くのが楽しい…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 宗教は我々に自己の存在の意味を教えてくれる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

私個人としては
この意見に

全く 反対だ	ど ち ら か と い	ど え ば 反 対 だ	ど ち ら か と い	ど え ば 賛 成 だ	全く 賛成だ
-----------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	-----------

意見

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 6. 私はお念仏による救いについて疑念を抱くこともある…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. お念仏は私の宗教体験のなかで最も重要な部分を占めている…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. 仏教を信じないような生活は無意味だ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. 宗教は、人間が人間以上の力によって、自らの理知や力の不足を補なおう
とすることから生まれたものである…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. 宗教は我々の社会の道徳を維持していくのに必要不可欠である…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11. 宗教心のない人は心の貧しい人だ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12. 真宗の教えを広めていくうえで教団は必要不可欠だ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13. 現在の真宗には儀礼的要素が多すぎる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14. いろんな宗教があるが、結局行きつくところはみな一つである…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15. 科学によって人生の意味が明らかにされることはない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16. 私の生き方は信仰に裏打ちされたものである…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 17. 法要には難しいお経をよむより、わかり易い聖典をよんだ方がよい…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 18. 門徒は公害・福祉問題などの社会運動に積極的に参加すべきである…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 19. 真宗のご法義は現実生活と遊離している点がある…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 20. お念仏は来世の救いであるよりもむしろこの世の救いである…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 21. 真に宗教的な人は、日常生活全てにおいて道徳的に立派であるはずだ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 22. お寺は人生の諸問題を解決する重要な場である…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 23. 私には死後の世界があると思える…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 24. 人がお念仏から得る最大の御利益は、その個人の心が安らかになるこ
とである…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 25. 宗教は私の人生哲学の最も重要な部分を占めている…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 26. 教団の規則に従わないような人は教団から除名されるべきだ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 27. 政治活動をすることよりも、教えを聞くことの方が大切だ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 28. 地獄・極楽というのは迷信である…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 29. よい生活を送るためには何らかの宗教的信仰が必要だ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 30. 仏教はキリスト教よりもすぐれた宗教である…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 31. 僧侶は教義について知らなくても信仰をもつことの方が大事だ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 32. 布教使は仏法を説くべきであって、政治について語るのはもってのほ
かだ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

私個人としては
この意見に

全く 反対だ	ど え ば 反 対 だ い	ど ち ら か と も	い え な い	ど ち ら か と い	ど え ば 賛 成 だ	全 く 賛 成 だ
-----------	---------------------------------	----------------------------	------------------	----------------------------	----------------------------	-----------------------

意見

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 33. 宗教を信じていなくても幸福な生活を送ることができる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 34. 科学が進めば進むほど宗教の重要性がうすれていく…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 35. 僧侶は教団にまもられて布教活動をすべきだ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 36. お寺はよりよい社会関係・人間関係を形成するための場である…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 37. 氏神の祭りは地域の連帯を高めるのに必要だから、ある程度協
力すべきだ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 38. 先祖供養をしない人は信仰のない証拠である…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 39. 宗教で救われるということを耳にするが、それはこの世でうまくいく
ことをいうのだと思う…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 40. 形式的なお盆の檀家参りは廃止すべきである…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 41. 日本人特有の祖先崇拝は美しい風習だと思う…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 42. 政治に対していたずらに批判するよりも、政府のやり方に国民が協力
することの方が現在ずっと大切なことだ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 43. 政治のことは政治家にまかせておくべきで、国民は自分の仕事に専念
することが大切だ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 44. 日本には仏教という立派な宗教があるのだから、他の宗教は不必要だ… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 45. 天皇制は結局反動的な勢力に利用される恐れがあるから、次第になく
する方向に向かうべきだ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 46. 労働者の生活の向上のために、労働組合のストライキはもっと大幅に
許されてよい…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 47. 科学が進みすぎると健全な宗教心の発達が阻害される…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 48. 嫁はいったんをついだ以上、自分の気持ちにそぐわないことでも、その
家の家風に従わなければならない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 49. 一家の主人が台所の手伝いをしたり、部屋の掃除をしたりすることは、
男のすべきことではない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 50. 共産主義者は、人民のためということをよく口にするが、共産主義は
結局は独裁的なやり方で個人の自由をおさえつけるのだから、民主主
義の敵である…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

私個人としては
この意見に

全く 反対だ	ど ち ら か と い	え ば 反 対 だ い	ど ち ら か と い	え ば 賛 成 だ い	全く 賛成だ
-----------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	-----------

意見

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 51. 労働者がストライキなどをするのは、共産主義者がうしろで煽動するからだ..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 52. 労働者のストライキは労働者の基本的人権を守り、資本家の搾取を防ぐために絶対必要である..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 53. 政治で騒ぐより、自分自身の仕事に精出した方がよい..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 54. われわれの暮しは、国の政治と関係のないものだから、暮しを楽しむためには自分自身がこつこつ一生懸命に働くことが第一である..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 55. 最近相次いで起こっている汚職問題について、あまりにもばかばかしくて、もう怒る気力もなくなった..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 56. 教団のかかげている目的と本山当局が実際やっていることとは異なる点がある..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 57. 本願寺教団の方針には同感できる..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 58. 全体としてみて、わが教団はよい教団だと思う..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 59. 「安楽死」ということが問題になっているが、それは形を変えた殺人行為である..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 60. 「安楽」の是非論は、宗教よりむしろ科学によって解決するのが望ましい..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

質問票 II

この質問票では、問いが質問形式となっています。あなたのご意見や立場に最も近いものを必ず1つ選んで番号を○でかこんで下さい（回答用紙へは番号を記入して下さい）。

1. 真宗の教えはあなたの生活にどの程度影響を与えていますか。
 1. 非常に影響を与えている
 2. かなり影響を与えている
 3. 少し影響を与えている
 4. ほとんど影響を与えていない
2. あなたはお念仏を称えているとき、み仏に抱かれているという実感を味わうことがありますか。

1. しばしばある 2. かなりある 3. ときどきある 4. あまりない 5. めったにない
3. あなたは月にどのくらいお寺に行きますか。
 1. 10日以上 2. 5日～1週間 3. 2～4日 4. 1日 5. 0日
4. あなたの親しい友人を5人思い浮かべて下さい。さて、その人たちのうち真宗に帰依しているのは何人ですか。
 1. 3人以上 2. 2人 3. 1人 4. 0人
5. あなたの家族の人たちとの会話のなかで、あなたは宗教や宗教活動についてどれくらい話していますか。
 1. しょっちゅう 2. かなり 3. 時々 4. たまに 5. めったにない
6. あなたは1週間のうちお聖教や宗教的書物をどれくらい読みますか。
 1. 5時間以上 2. 3～5時間 3. 1～3時間 4. 1時間 5. めったに読まない
7. あなたのお子さんが結婚するとしたら、結婚式はどこで行うべきだと思いますか。
 1. 自分のお寺 2. 設備の整った別院や本願寺系の会館 3. 一般の結婚式場 4. 本人の希望に任せる
8. お念仏について、あなたの意見に近いのは次のどれですか。
 1. お念仏は私の日々の行動上で完全な習慣となっている
 2. 何か心に不安や緊張があるときにお念仏を称える
 3. お念仏は法要以外には称えない
 4. ほとんどお念仏を称えない
9. 仏教青年会に入っている未婚の男女が性関係をもったとします。このことについてあなたの意見に近いのはどれですか。
 1. 仏青の会員であり、仏教の教えに接している身であれば、このような道徳に反する行動をすべきでないし、また、しないはずだ。
 2. 婚前交渉は個々人の責任によって解決すればよいことだ。
10. 工場や会社の屋上に稲荷さんをまつたとき、従業員である真宗信者のとるべき態度としてあなたはどれをすすめますか。
 1. そんな会社はやめてよそへつとめる。
 2. 会社がまちがっているから会社と対決すべきだ。
 3. 朝礼のあいさつに出るくらいの軽い気持で列席して、心の中でお念仏を称えておればいい。
 4. まつるという行為は宗教心のあらわれであるから、まつらないよりはしました。

以上です。ご協力ありがとうございました。